

“二子玉川地区社会福祉協議会” コロナ禍における挑戦！

－声かけあい・支えあい・見守りあえる地区を目指して－

社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会 二子玉川地区社会福祉協議会

玉川 稔、中澤 裕美子

(福祉でまちづくり)

1. 背景と目的

二子玉川地区は2019年に「用賀地区」を分割し、玉川、瀬田を管轄する「二子玉川地区」として新設された。この地区の新設に伴い、区内29か所目の地区社会福祉協議会（以下、地区社協）が設立。地区社協では、同じまちで暮らす住民同士が力と知恵を出し合って、様々な福祉活動を「地域福祉推進員」が中心となって「福祉でまちづくり」を目指し活動している。

設立後、コロナ禍に伴い平時の活動ができない状況に陥る。しかし、コロナ禍で顕在化した地区課題の解決を目的に関係機関団体と連携を図り工夫し事業に取り組むこととなった。

2. 実践内容

(1) あんしん～地域見守り事業～

【新型コロナウイルスの影響によるニーズ把握のためのアンケート調査】

地域福祉推進員を対象に地区内における影響や変化、集まれない中での取組み、地域住民が抱えるニーズ把握を目的としたアンケートを実施。

【みまもり応援隊プロジェクト】

「声かけあい・支えあい・見守りあえる」二子玉川地区をコンセプトに見守り体制づくりに取り組む。挙がってきた課題の分析や検討を行い、課題解決を目的とした地区社協事業に繋げる。

【公営住宅のコミュニティ再生と見守り体制づくりへ向けた支援】

地域のつながりの脆弱化と、それに伴う高齢者の孤立が問題となる中、公営住宅のコミュニティ再生等を目的に、自治会や関係団体等と連携し“Smileひろば”の取組みを実施。

【食で応援プロジェクト】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い生活に困窮している方等に対し、ご家庭で余っている食品をご持参いただき、困っている方にお渡しする取組みを実施。

(2) つながり～シニア関係事業～

【シニアの居場所づくり】

外出自粛、行き場を失い心身状態の低下が著しい高齢者のため、安心して集える交流の機会“桜の木の下で”を屋外での開催、密を避け少人数で午前・午後の2部構成で実施。

【瀬田エリアにおける運動の機会づくり】

高齢者のコロナフレイル問題からの運動需要の高まりを受け、運動の場が少ないエリアに地区サポーター（社協ボランティア）による体操交流会を実施。

【シニアの食支援プログラム】

通いの場において、健康支援型配食および管理栄養士による食事・栄養に関する相談、低栄養予防等の講座を実施し、コロナ禍におけるシニアの閉じこもり・栄養問題の改善等に取り組む。

(3) まなぶ～二子玉川地区を助け合い、支えあいのまちにしよう～



【オンライン講座～社会参加プロジェクト～】

会えなくても繋がるツールとしてシニアのオンライン需要の高まりから、スマホ講座を開催。社会参加の機会を増やす目的に社協事業等を紹介しボランティア活動に繋げた。

(4) つなぐ～子どもたちをみんなで育てよう～

【みんなでつくる福祉学習プログラム】

コロナ禍で小学校へ訪問ができないため、地域福祉推進員が車椅子の操作方法の手順を紹介する「手作りの福祉学習ガイドブック」を作成、地区内の小学校へ届け授業で活用された。

【子育て関係団体ネットワーク】

地区内の子育て関係機関・団体などがいつでも連携が図れるよう顔の見える関係づくりから連携強化を図っている。またコロナ禍における親子の孤立予防のため「おでかけマップ」を作成、出会いの機会づくり等を目的に「子育てママのリフレッシュ Day」事業に取り組んでいる。

【子育て応援講座、育児相談】

コロナ禍で学びの機会が減少したため、ZOOMによる子育て応援講座を開催。何か起きてから取り組むのではなく、悩みや不安なことなど話ができるきっかけづくり毎月開催。育児相談については、医師、看護師、保育士により幅広い相談に対応できるよう連携し取り組んでいる。

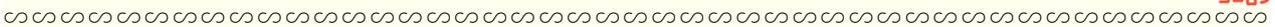
3. 結果（私たちが学んだこと）

コロナ禍であっても地域住民および関係機関団体と連携を図ることで事業に取り組むことができた。

4. 考察と今後の課題

地域住民や関係機関団体とのネットワークを起点として、引き続き

コロナ禍における地区課題に取り組めるよう活動の充実を図っていきたい。



<助言者コメント>

諏訪 徹（日本大学文理学部社会福祉学科教授）



コロナ禍で全国各地の地域活動がストップしたなかで、しかも2019年に地区社協ができたばかりなのに、これほど多くの新しい取り組みを創り出されたことに、まず大変驚きました。「コロナ禍だからこそ何かしなくちゃいけない」「活動を止めてはいけない」という強い思いに突き動かされて住民の皆さんが立ち上がり、それを社協やあんしんすこやかセンター、地区センターなどの専門機関がしっかりとバックアップされたのだらうと思います。

活動の内容については、見守り、公営住宅の支援、食支援、オンライン講座、子育て世帯の支援など、個々の活動が地域のニーズを的確にとらえたものとなっている点がとても良いと感じました。アンケート調査や丁寧な話し合いが、これらの活動を生み出していったのだと思います。

また、活動の実施にあたって、各種の関係団体の協力を得て取り組まれていること、新しい人々の参加の機会を広げていることも、素晴らしい点です。このことを通じて、これまで地域を支えてこられた町会、民生委員の方々とのつながりのなかに、新しくこの地区に来られた若い世代、子育てグループ、NPO、企業、各種専門機関等の方々に加わり、地域を支える人々のネットワークが広がったのではないかと考えます。

コロナ禍という大変な時期を一緒に乗り越えた経験、世代やセクターを越えたつながりは、地域の未来をつくっていく大きな財産となるはずです。二子玉川地区社協のこれからの発展に大いに期待します。